

平成26年度 学術情報リテラシー教育担当者研修  
国立情報学研究所(2014.11.26)

---

# 学術情報リテラシー教育 における企画・立案

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長  
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴

---



# 本日の内容

---

- I. 「学ぶ」とは何かを知る
- II. アクティブ・ラーニングの取り込み
- III. プログラム事例と今後の展開



## I. 「学ぶ」とは何かを知る

# 企画・立案の前に確認すること

---

図書館は従来、情報源を貸し出したり、配信したり、契約した情報源へのアクセスを保証したりと、つねに情報源の流通、ロジスティクス（物流）を重視してきた。

今後の学術情報リテラシー教育はその視点から脱却し、届いた情報をどう利用すれば、学生の認知・思考が活性化し、学習成果を生むのかを焦点とする。

それを可能にする有力な学び（の手法）がアクティブ・ラーニングであり、アクティブ・ラーニングを取り込んだ学術情報リテラシー教育プログラムの開発が重要になる。

学生の学習行動を変える情報源の利用方法を提示し、得た情報を使ってどのように知識を創造するのかを、事例とともに考えたい。

---

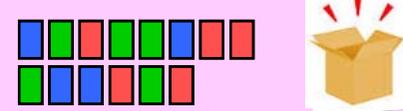


# I. 「学ぶ」とは何かを知る

## ロジスティクスでなく認知メカニズムが焦点



情報取得  
(他者を介した)

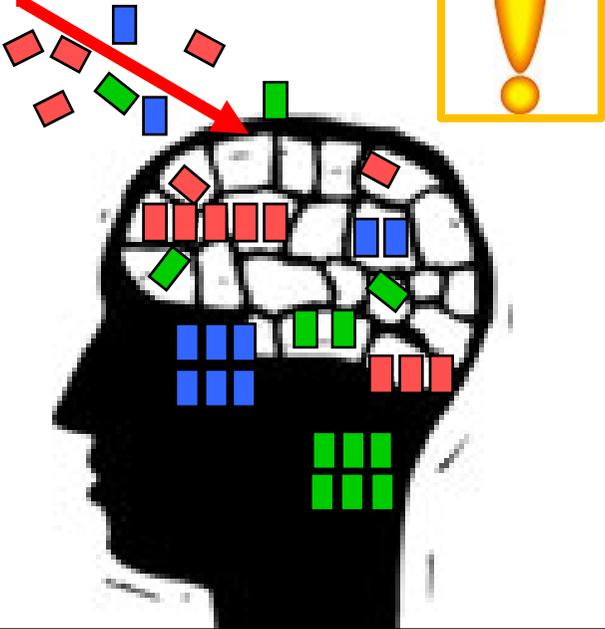


A pink box containing two rows of colored squares (blue, green, red) and an icon of an open cardboard box with red arrows pointing out.

- ①情報・知識を得れば、文脈を判断し、
- ②頭の中の構成定義(スキーマ)を更新し、
- ③記憶するインデクスの再編成を行う

スキーマの更新, インデクス再編成, 知識の関係づけ, 意味づけ

- 「学術情報流通」
- ・リポジトリで発信
  - ・データベースへのアクセス保証



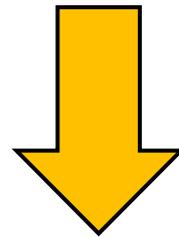
ロジスティクスの視点

学びの認知メカニズム

## 学習（学ぶ）とは何か

---

- ▶ 日々得る情報を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



**Fabulous!!**

---

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー

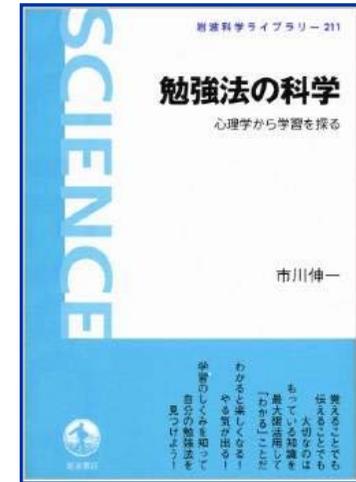
- ▶ 「情報リテラシー教育」(2009. 12)

## I. 「学ぶ」とは何かを知る

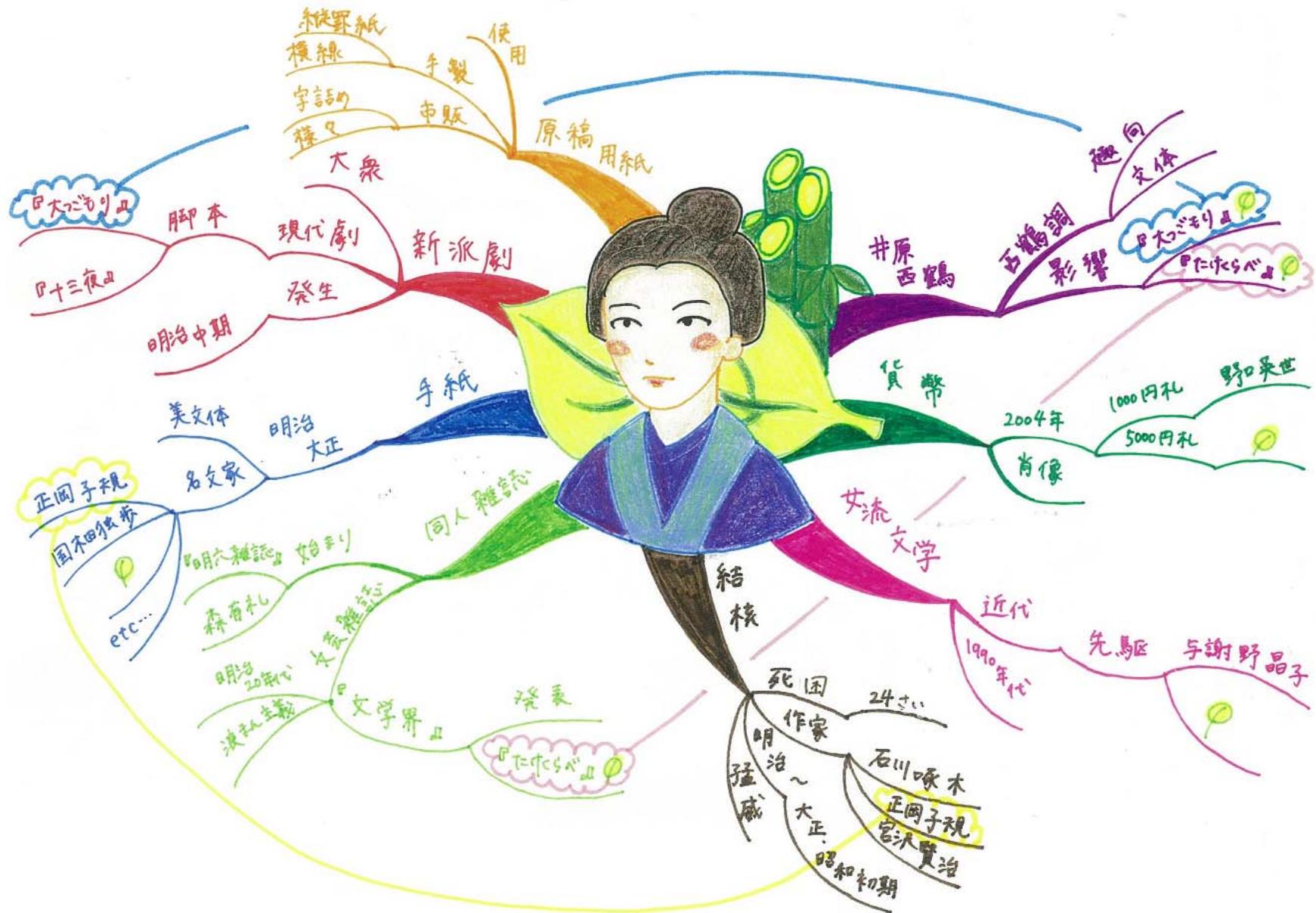
# 市川伸一 『勉強法の科学』

### 覚えること、伝えること、分かること

- ▶ [原理や法則等を]分かった人は、簡単に覚えられるし、まず忘れない。ここで大切なことは、一見ばらばらのものに、なんらかの関係を見出せば、覚えやすくなるということである。
- ▶ 物事の間関係が分かれば、わたしたちは実によく覚えることができる。ただし、それが分かるためには、知識が必要なことに注意してほしい。



# I. 「学ぶ」とは何かを知る



## アクティブ・ラーニングが言語化できない①

---

- ▶ アクティブであるべきなのは、学生の行動 (Behavior) ではなく、認知 (Cognition) であり、学生の「認知的な」姿勢をアクティブにすることが重要 (メールマガジン「Beating」第58号)
  - ▶ 学習は、学習者の能動的探索による知識構造体 (スキーマ) の組み替えであり、その過程のコミュニケーション行為により、知識が社会的に構成されることを重視
  - ▶ コミュニケーションの文脈デザインと知識再構成過程への関与により学習支援が可能
- 



## アクティブ・ラーニングが言語化できない②

### ▶「思考を活性化する」学習形態

- ・実際にやってみて考える。
  - ・意見を出し合って考える。
  - ・わかりやすく情報をまとめ直す。
  - ・応用問題を解く。
  - ・振り返る(省察する)。
- ＝活動を介してより深くわかる

**形態・呼称:** 課題探求型学習, PBL (Project-, Problem-Based Learning), 学生参加型授業その他

**理論・手法:** アンカード・インストラクション, 相互教授法, ジグソーメソッド, ゴールベースドシナリオ, LTD等

## 学習（教育）効果を高める2つの視点

---

### ▶ インストラクショナルデザイン

#### ※アクティブ・ラーニングの取り込み

1. 行動主義: 定型行動の正確さ
2. 認知主義: 応用・転移
3. 社会構成主義(状況的学習観): 実践と協同

### ▶ 学習環境デザイン ※ラーニング・コモンズ

学習者が多種多様な学習資源にアクセスできるように  
空間的・社会的デザインを施す。

「行為や認知を誘発する資源」としての環境。

---



教育開発・実践センター  
Fder / Academi Instructor

図書館  
図書館員



高等教育論の知見  
教育方法論の知見

図書館情報学の知見



大学が提供する  
情報資源

教育理論  
学習科学  
教育学  
教授法

分類  
独自のスキル  
目録

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用  
学習成果の引出し方が上手

図書館の「学術情報流通」 =  
ロジスティクスの論理では…



### Ⅲ. プログラム事例と今後の展開

#### 2014年度同志社大学 春学期アカデミックスキルセミナー概要

No.	セミナー名	概要	開催日時
1	学術文献の読み方	自らの課題、テーマを念頭に、どう文献を読み進めればよいのかをミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	6/27(金)4講時[今] 7/8(火)4講時[今] 7/18(金)3講時[田]
2	アイデアの拡張法	マインドマップと検索エンジンを使い、レポート・論文作成に役立つアイデア出しの方法を学ぶ。	6/19(木)4講時[今] 7/8(火)3講時[今] 7/11(金)4講時[田]
3	伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	6/16(月)4講時[今] 7/4(金)4講時[今] 7/25(金)4講時[田]
4	プレゼンの構成法	伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学ぶ。	5/14(水)3講時[今] 5/20(火)3講時[田] 5/22(木)3講時[今] 5/27(火)3講時[今] 5/28(水)3講時[田]
5	グループでのアイデア出し	グループで多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方について学ぶ。	7/2(水)4講時[今] 7/17(木)4講時[今]
6	ソーシャルメディアの学術的利用法	SNSなどのツールを用いてウェブ上の情報を半自動的に収集する方法を学ぶ。	6/20(金)3講時[田] 6/26(木)4講時[今] 7/14(月)3講時[今]
7	レポートの構成の立て方	レポートの構成の立て方を、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	6/5(木)4講時[今] 7/14(月)4講時[今] 8/1(金)3講時[田]
8	ノートの取り方	聴きながらとる、読みながらとる。マインドマップを使ったノートの取り方、まとめ方を学ぶ。	6/4(水)3講時[今] 6/17(火)4講時[今] 6/27(金)4講時[田]
9	ポスターの作り方	身近なツールを利用し、ポスター発表等で必要となるコツや技をサンプルを交えて学ぶ。	6/11(水)4講時[今] 7/9(水)3講時[今] 8/8(金)4講時[田]
10	レジュメの作り方	授業やゼミの発表に欠かせないレジュメ。レジュメ作成のポイントを、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	5/30(金)4講時[今] 6/13(金)4講時[田] 6/17(火)3講時[今]
11	引用の方法	なぜ引用するのか、どのような引用形式があるのか。レポート・論文作成に欠かせないルールについて学ぶ。	6/11(水)3講時[今] 7/4(金)3講時[田] 7/15(火)4講時[今]

## 《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう) 情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。

野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.

## 学術情報とアクティブ・ラーニングの関係？

---

- ▶ **学術情報委員会** (科学技術・学術審議会, 学術分科会)  
「学術情報がアクティブ・ラーニングに果たす役割を  
明確にしてほしい」

従来: モノ(情報)があって, 配信する【モノ重視】

学術情報流通: ロジスティックスの視点で語りすぎた  
きらいあり(インフラ面に偏重)

今後: まず学びの行動があって, モノ(情報)を使って,  
人の「認知」を変える支援をする【コト重視】

→ 本日の研修参加者は、教材事例を集めてどう説明すればよいかを考えてほしい。

---



授業

教える(教育)

学ぶ(学習)

《改善に向けた方策》

教育力開発:FD

学習力開発:SD

インストラクショナル・デザイン(ID)  
教授法(Pedagogy)

学びの深化, 学びの質向上

授業外学習

※学びのマネジメント(省察的思考)  
モチベーションの質  
理解内容の質  
学習の進め方  
(他者と環境の相互作用の中で)

Unlearn: 学びほぐし

## Blended Librarian, Embedded Librarian(に学ぶ

---

### ▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術, 授業設計技術, 教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2014-11-19)

### ▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ, 利用者が活動している場から, 利用者と活動とともにしつつ情報サービスを提供している図書館員

鎌田均. 「エンベディッド・ライブラリアン」: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき, 情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを, 学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

---



### Ⅲ. プログラム事例と今後の展開

#### ◎ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

---

#### 「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)

— 変革する大学にあって求められる大学図書館像 —

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
  - (3) 大学図書館に求められる機能・役割
    - ① 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
  - (2) 大学図書館員に求められる資質・能力等
    - ① 大学図書館職員としての専門性
    - ② 学習支援における専門性
    - ③ 教育への関与における専門性
    - ④ 研究支援における専門性

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)  
(参照2014-11-20)

---



## 押さえておくべき「答申」類など

- ▶ 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会. “学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議のまとめ)”. 文部科学省. 2013-08.(参照 2014-11-19)
- ▶ 国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会. “高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)”. 国立大学図書館協会. 2014-03.(参照 2014-11-19)

### － 中央教育審議会 －

- ▶ 中央教育審議会. “学士課程教育の構築に向けて(答申)”. 文部科学省. 2008-12-24.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)  
(参照 2014-11-19)
- ▶ 中央教育審議会大学分科会大学教育部会. “新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け,主体的に考える力を育成する大学へ(答申)”. 文部科学省. 2012-08-08.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)  
(参照 2014-11-19)



### Ⅲ. プログラム事例と今後の展開

## 学習科学・学習理論を理解するために

---

連載 5分でわかる学習理論講座 (全11回). Beating(メールマガジン). 2005, no.11 - 2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html> (参照 2014-06-19)

※連載内で紹介されている文献すべて

市川伸一. 勉強法の科学 : 心理学から学習を探る. 岩波書店, 2013. xi, 110p.

今井むつみ, 野島久雄. 人が学ぶということ : 認知学習論からの視点. 北樹出版, 2003, 247p.

R.K.ソーヤー編. 学習科学ハンドブック. 培風館, 2009. 490p.

---



# 本日のまとめ

---

1. 「人はどう学ぶのか」=学習理論に立脚したプログラムを企画・立案する。《連携の共通言語》
  2. アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、情報源の提供を超えた、「情報を使った学び」の経験」をプログラムの焦点にする。  
《アクティブ・ラーニング型情報リテラシー教育》
  3. ツールの操作にとどまらず、情報を使う時の「考え方」「読み方」「可用性」等に焦点を当てた内容にする。《モノ(情報)よりコト(行為)》
- 

